

新規制基準適合性審査状況のお知らせ(2月末現在 審査会合106回開催)

《防潮堤の設計方針等の変更について》

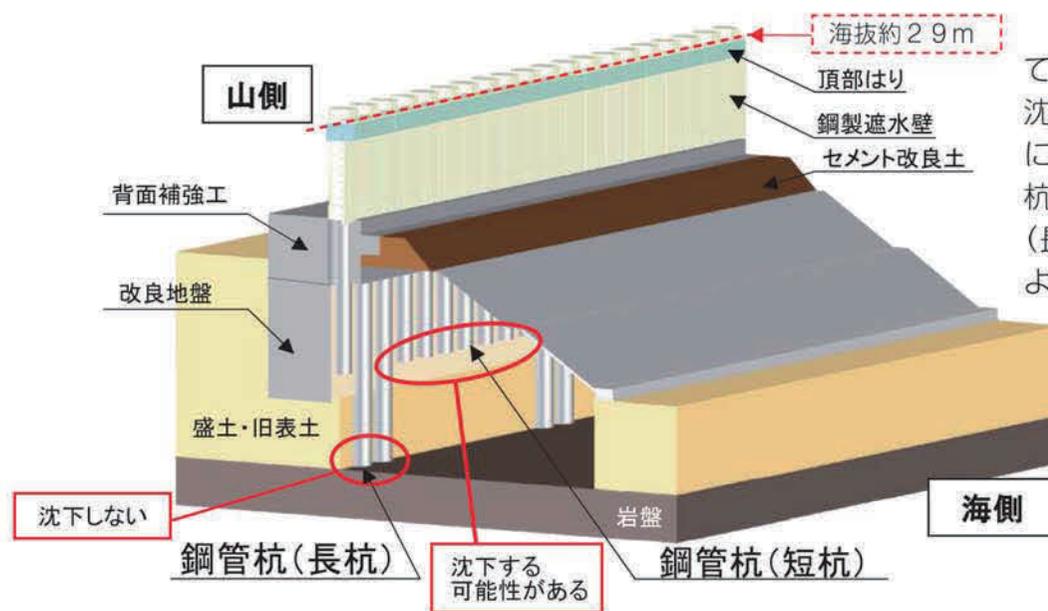
女川原子力発電所では、極めて厳しい条件での津波評価結果を踏まえた津波防護対策として、防潮堤かさ上げ工事(海拔約2.9m)を実施しています。女川2号機における新規制基準への適合性審査では、この防潮堤の設計方針について審議されています。(平成30年2月13日)

当社は、とても大きな地震や津波が来ても、防潮堤の構造が損なわれないように、さらに強化することについて説明しました。具体的には、従来の防潮堤の沈下を許容した設計から「防潮堤を沈下させない設計」へと変更し、防潮堤下部の盛土・旧表土部分を地盤改良することを審査会合で説明しました。

また、さらなる安定性確保の観点から防潮堤の下部以外の盛土・旧表土部分についても地盤改良することにしました。

そして、今回変更した設計方針を踏まえ、防潮堤の地震や津波に対する健全性(強度や安定性、止水性)を今後評価していくことも説明しました。

今後は、地盤改良の施工方法や品質の確認方法、周辺施設への影響の有無などについて原子力規制委員会の審査において説明していくこととしています。



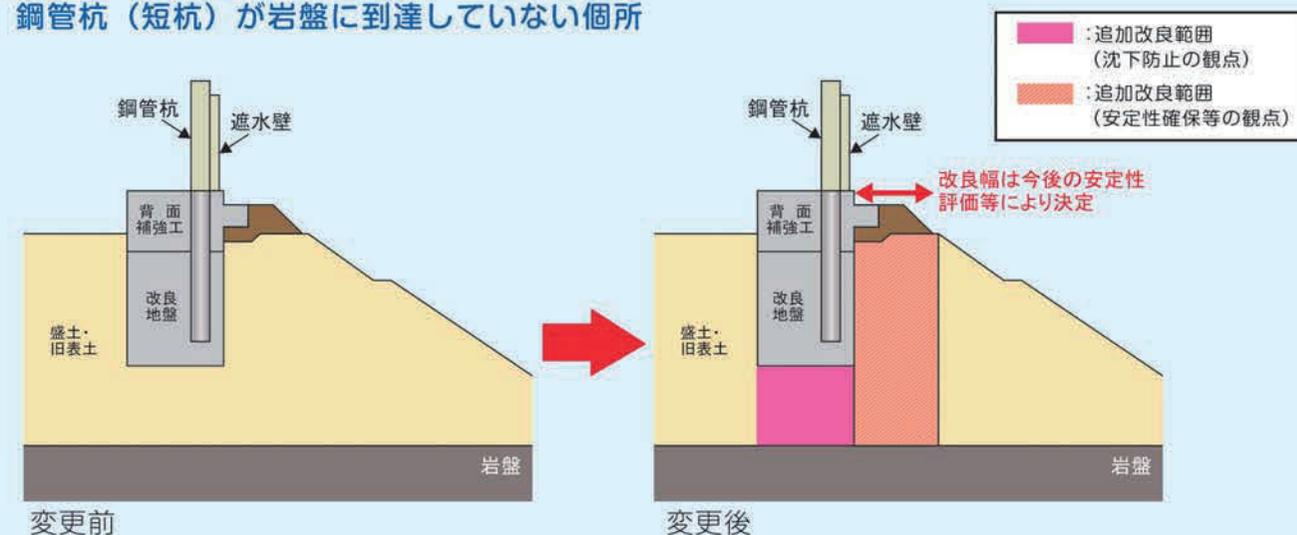
従来は、岩盤に到達していない鋼管杭(短杭)が沈下した場合でも、岩盤に到達し沈下しない鋼管杭(長杭)と、その鋼管杭(長杭)を結ぶ頂部はりにより、海拔約2.9mの高さを維持できる設計としていました。

防潮堤完成予想図(かさ上げ後)



地盤改良の一例(鋼管式鉛直壁)

鋼管杭(短杭)が岩盤に到達していない箇所



防潮堤下部の盛土・旧表土部分を地盤改良することにより岩盤に到達していない鋼管杭(短杭)も沈下しない設計とします。また、防潮堤の安定性をさらに確保するための地盤改良も行います。

シリーズ 常に備える④

《万ーに備えたさまざまな設備を実際に動かすのは「人」です》

女川原子力発電所には、2号機の中央制御室を模擬した訓練用のシミュレーターがあります。ここでは、発電所の運転・管理の経験が豊富な所員が講師となり、日々さまざまな訓練を実施しています。プラントの起動や停止といった通常の運転技術に加え、発電所の交流電源が全て使えなくなる事故を想定した訓練など、繰り返し厳しい訓練を行い、緊急時の運転技能の習熟を図っています。発電所の安全を確保するのは「人」です。今後も様々な事象を想定し、繰り返し訓練を行うことで、冷静・迅速かつ的確な対応能力の維持・向上に努めてまいります。



交流電源が全て使えなくなる事故を想定したシミュレーター装置による運転訓練（原子力技術訓練センター）

私は、原子力技術訓練センターで、2号機の中央制御室を模擬したシミュレーターによる運転訓練の講師を担当しています。シミュレーターでは、東日本大震災から得られた教訓を踏まえ、全ての交流電源が使用できなくなる事象や運転中では経験できない故障および事故を模擬体験することができます。それらを組み合わせて、様々な訓練を行い指導することで、運転員の育成および技量向上を図るとともに発電所の安全確保に努めてまいります。



技術統括部 計画管理グループ 武田 啓（石巻市出身）

《第16回東北電力図画コンクール作品展を開催します》

豊かな想像力と自由な発想で描かれた「想像の海の生きものたち」をより多くの方々にご覧いただけるよう、ご応募いただいた全作品（5,396作品）の中から最優秀賞、優秀賞、審査委員特別賞、奨励賞を含む、1次審査を通過した200作品を展示します。ご家族お揃いで、ぜひ会場までお越しください。

会場 女川原子力発電所 地域総合事務所（案内マップ参照）

展示期間 平成30年3月19日（月）～3月25日（日）10:30～16:00

《東北電力IH料理教室のご案内》

～IHクッキングヒーターで楽しく作って、美味しく食べよう！～

女川町復幸祭に合わせ「IH料理教室」を開催します。

実施日時 平成30年3月25日（日）
 1回目 10:00～ 2回目 11:30～
 3回目 13:00～ 4回目 14:30～
 （1回の料理時間は20分～30分程度となります。）

実施場所 女川原子力発電所 地域総合事務所（1階 多目的スペース）

参加費 無料（各回先着20名様までの受付となります）
 ※入口に準備している受付簿にお名前と人数をご記入いただき、開始時間前にお集まりください。

メニュー ●白身魚の香草揚げ ●フライドポテト ●いちごのカップケーキ



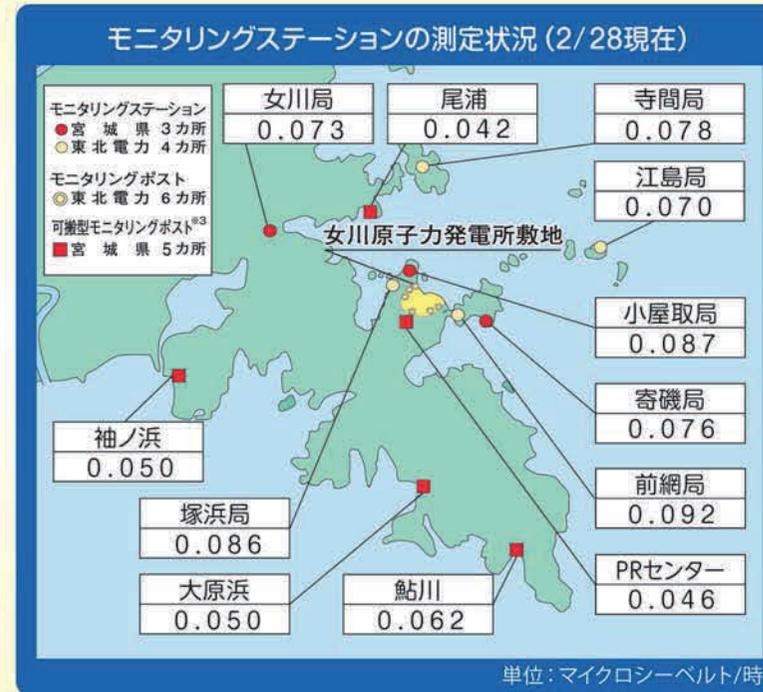
※写真はイメージです。



《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.052マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



（参考）モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	平成23年3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉	平成23年3月13日	1.8～21*4
〈地震発生以降毎年度（4/1）の値と至近値〉	平成24年 4月1日	0.063～0.098
	平成25年 4月1日	0.055～0.076
	平成26年 4月1日	0.046～0.065
	平成27年 4月1日	0.043～0.077
	平成28年 4月1日	0.041～0.061
	平成29年 4月1日	0.038～0.059
	平成30年 2月1日	0.036～0.048
	平成30年 2月28日	0.037～0.052

単位：マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、毎年度（4月1日）の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

【お詫び】「発電所だより2月号」の女川原子力PRセンター春休みイベント「おしごとEXPO 2018」の告知に関わるホームページ・アドレスに誤りがありましたのでお詫び申し上げます。